

優秀賞

「願い」の意味を知る

京都府 鈴木美智子

「このレースだけは、絶対に完走したい」

私は、そう強く願い、「母の娘」というプライドを胸に、母と三十五年間繋いで走った伴走ロープをポーチに入れ、サロマ湖百キロウルトラマラソンのスタートを切った。

全盲且つ女手一つで、私を大切に育ててくれた母への感謝。失明後、死を選ぼうとした時期もあったが、マラソンを転機とし、「私より幸せな人がいるのかしら」「目で感じる光は無いけれど、心はいつもいい天気」と言う程、輝いて生きた母への深い敬意。当時は自分と同じ様に走れる事を当然と思っていたが、今年、母が百キロレースに初挑戦した同じ歳を迎え、改めて母の偉大さに気付く。母が天国に旅立って四年。母に直接伝えられなかった、溢れんばかりの思いの丈を、百キロのゴールにぶつけたかった。

「強く生きていつてね」と、母に手を強く握って言われた時、胸が詰まり、何も言葉が返せなかった。今こうして、強く生きている姿を、どうしても母に見てもらいたかった。

過酷なレース中、幾度となく思う母の姿、母の言葉が、原動力に変わる。そして願いを叶えたい強い意志が、目には見えなくても、底知れぬパワーを生み出すと実感する。

母と懸命にゴールを目指した光景がオーバードラップし、涙が溢れそうになるが、ゴールの瞬間は、笑顔で空を見上げ、「お母さん、やったよ」と、心一杯叫んだ。母に思いを届けたい、ただそれだけを願い、走り続けた十二時間。願いは叶えられた。

五十一歳にして気付いた事がある。

「願いを叶えたい」という強い意志が、惜しみない努力に繋がり、想像を遙かに超えるパワーを生み出すという事、その結果、願いが叶えられるという事。願いは「叶う」ものではなく、「叶える」もの。

それを知った私は、「母との約束を果たしたい」という次の願いの成就に向け、既に走り出している。